

# 日産車体株式会社 個人投資家向け会社説明資料

---

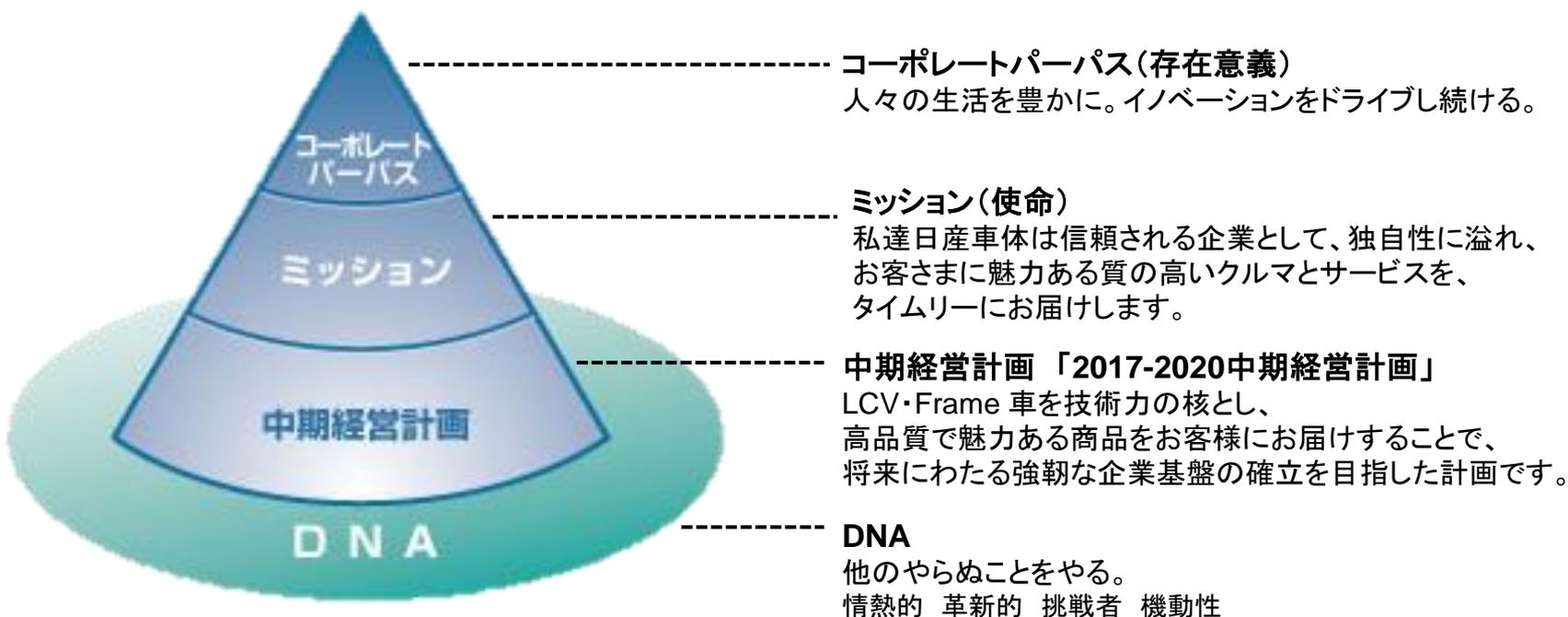


2022年11月

## グループのご紹介

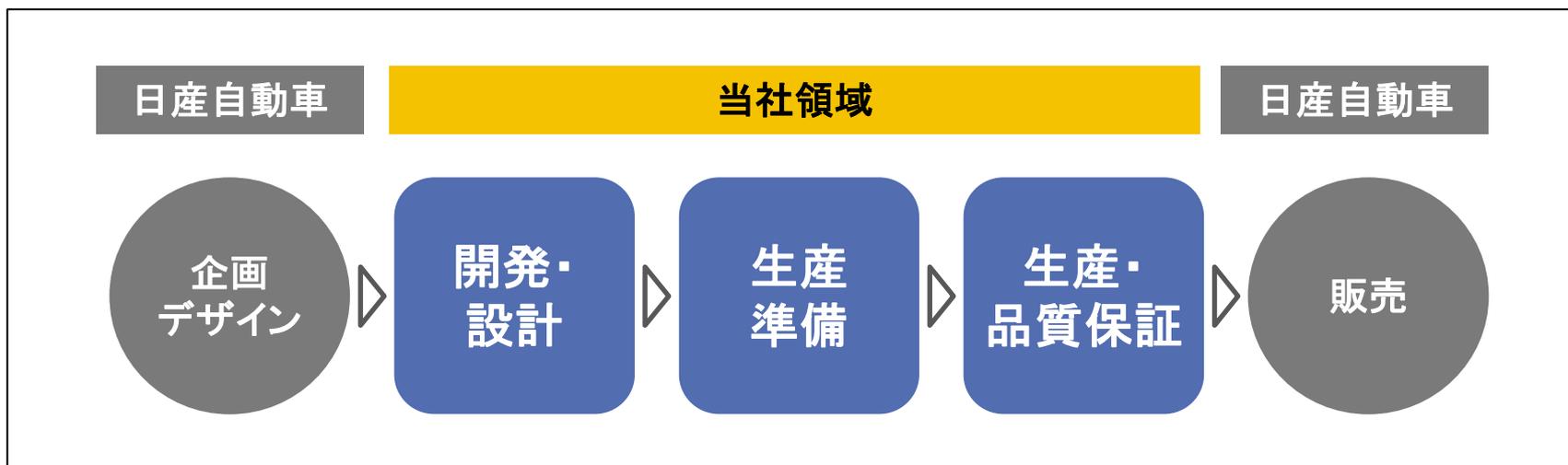
# 経営方針等

日産車体は、「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。」というコーポレートパーパス(存在意義)及び「私達日産車体は信頼される企業として、独自性に溢れ、お客さまに魅力ある質の高いクルマとサービスを、タイムリーにお届けします。」というミッション(使命)に基づき、「LCV・Frame 車を技術力の核とし、高品質で魅力ある商品をお客さまにお届けすることで、将来にわたる強靱な企業基盤を確立する」を基本方針とした、2017-2022中期経営計画に取り組んでいます。



# Outline

日産車体は、  
「LCV・フレーム車」を中心とした開発から生産  
までを担う日産グループの完成車メーカーです



LCV:Light Commercial Vehicleの略。小型商用車

フレーム車:トラックやバスに採用される頑丈な梯子フレームにパワートレインなど走行機能搭載し、その上にキャビンを搭載する構造の車。当社製品:大型SUVのアルマーダ、パトロール、QX80、小型トラックのパトロールピックアップ

# 日産車体グループ

## 湘南工場と日産車体九州の2つの生産拠点が主軸です

日産車体(株)

日産車体九州(株)

設立

1949年

2007年

事業内容

各種自動車の開発から  
品質保証まで

自動車および  
その部分品の製造・販売

従業員数

1,730名

1,113名

生産拠点

神奈川県平塚市

福岡県苅田町

(2022年3月31日現在)

湘南工場



日産車体九州工場



グループ会社

日産車体マニュファクチャリング株式会社

- ▶ 自動車部品の製造

日産車体エンジニアリング株式会社

- ▶ 生産設備、動力設備の企画・設計・製作・施工
- ▶ プレス金型の設計
- ▶ 生産設備、動力設備の維持管理
- ▶ 工場内物流サービス業務
- ▶ 物流機器・リチウムイオン電池関連製品の製造・販売

株式会社 **オートワークス京都**

- ▶ 各種自動車の車体製造、特別架装、整備業

日産車体コンピュータサービス株式会社

- ▶ アプリケーションシステム開発
- ▶ システム保守・運用

株式会社 **プロスタッフ**

- ▶ 一般労働者派遣事業
- ▶ 有料職業紹介事業
- ▶ アウトソーシング

# 沿革

年月	社歴
2019年	7月パトロール(Y62)2020モデル生産開始
2018年	パラメディック(E26)発表
2016年	6月、日産車体九州で北米向け大型SUVの「新型アルマーダ」生産開始
2014年	3月、新本社を第2地区に竣工・湘南再編完了
2012年	湘南工場第1地区での車両生産を終了、湘南工場第4地区での車両生産を第2地区へ集約、湘南工場の車両生産体制の再編を完了
2010年	日産車体九州稼働開始
2007年	子会社「日産車体九州株式会社」設立／生産累計1,500万台達成
1992年	生産累計1,000万台達成
1951年	日産自動車(株)と提携
1949年	当社前身 新日国工業(株)設立

## ▶ インフィニティ



インフィニティ QX80

## ▶ LCV



NV200 NY市 タクシー提案モデル

## ▶ ミニバン



## ▶ フェアレディZ



# グループのご紹介

## 主な生産車

### 湘南工場



**NV200**  
VANETTE  
NV200 バネット



**AD**  
AD



**QX80**  
QX80



**PATROL**  
パトロール：Y62



**PATROL**  
パトロール：Y61



**PATROL PICKUP**  
パトロール ピックアップ



**ARMADA**  
アルマーダ



**ELGRAND**  
エルグランド



**CARAVAN**  
キャラバン

### 日産車体九州



救急・医療関係車両



消防関係車両



幼稚園バス



公共応急作業車両



公共応急作業車両

### オートワークス京都

※ 株式会社オートワークス京都は、パラメディック(高規格救急車)など救急・医療関係車両、消防関係車両、幼稚園バス、公共応急作業車両など働くクルマの架装を行っている日産車体株式会社のグループ会社です。

# 特長

## 完成車メーカーとしてのDNAを活かした、 多くの特長を持っています

### 湘南工場

LCVを中心とした多車種少量生産の  
一大拠点



▶ モノコック車



▶ フレーム車

### 日産車体九州

厳しい品質基準をクリアし、日産のラグジュアリーブ  
ランドである「INFINITI」の生産を許されている工場



▶ ローラーヘミングによるエンジンフードの生産



▶ 新塗装技術

### 特装車

グループ内での一貫生産により、高品  
質な特別仕様車をスピーディに提供



# 2022年度第2四半期 連結決算概況

---

<累計>

# 決算サマリー

当社グループを取り巻く環境は、半導体不足に起因する一部の部品供給問題の影響や材料及びエネルギー価格の値上げ影響等により、厳しい状況が続いた。部品供給問題により売上台数が減少したものの、乗用車の売上が伸びた結果、増収となった。損益面では、材料の値上げ影響等により減益となった。

## 売上台数

乗用車の台数は増加したものの、部品供給問題により主に商用車が減少したことで、前年同期と比べ1.5%減少の60,491台

## 売上高

「AD」や「NV200バネット」等の商用車の台数減少の影響を大きく受けた一方で、「パトロール」や「インフィニティQX80」等の乗用車の売上が伸びた結果、157億円増加の1,309億円

## 営業損益

材料の値上げ影響等により4億円悪化の10億円の損失

## 経常損益

2億円悪化の6億円の損失

親会社株主に帰属  
する四半期純損益

3億円悪化の5億円の損失

2022年度 第2四半期 決算 <累計>

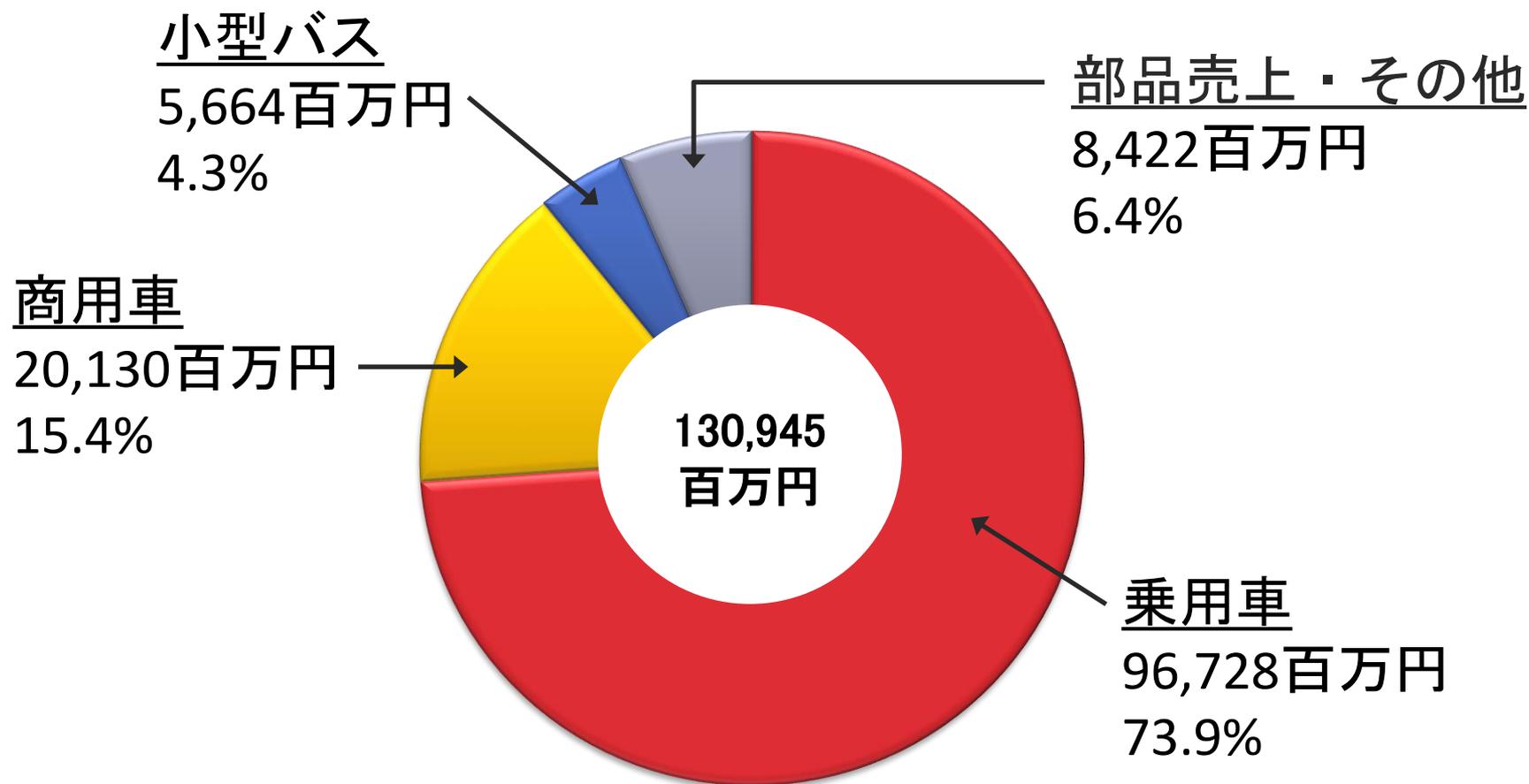
# 業績ハイライト

	2021年度 第2四半期 (2021/4~9)	2022年度 第2四半期 (2022/4~9)	増減額(率)		通期計画
売上高	115,151	130,945	15,794	13.7%	314,300
営業損益	▲ 544	▲ 1,040	▲ 496	—	9,500
経常損益	▲ 339	▲ 633	▲ 294	—	9,900
親会社株主に帰属 する四半期純損益	▲ 211	▲ 544	▲ 333	—	6,400

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。2022年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、当該会計基準等の適用により大きな影響の生じる売上高は、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

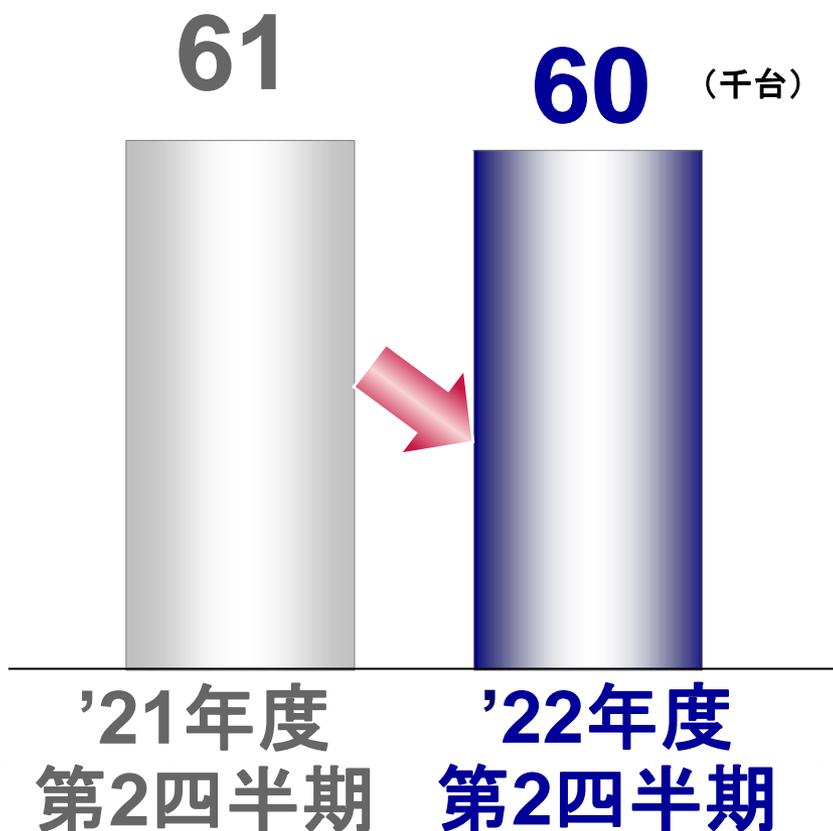
単位:百万円

# 品目別売上高構成比



# 売上台数

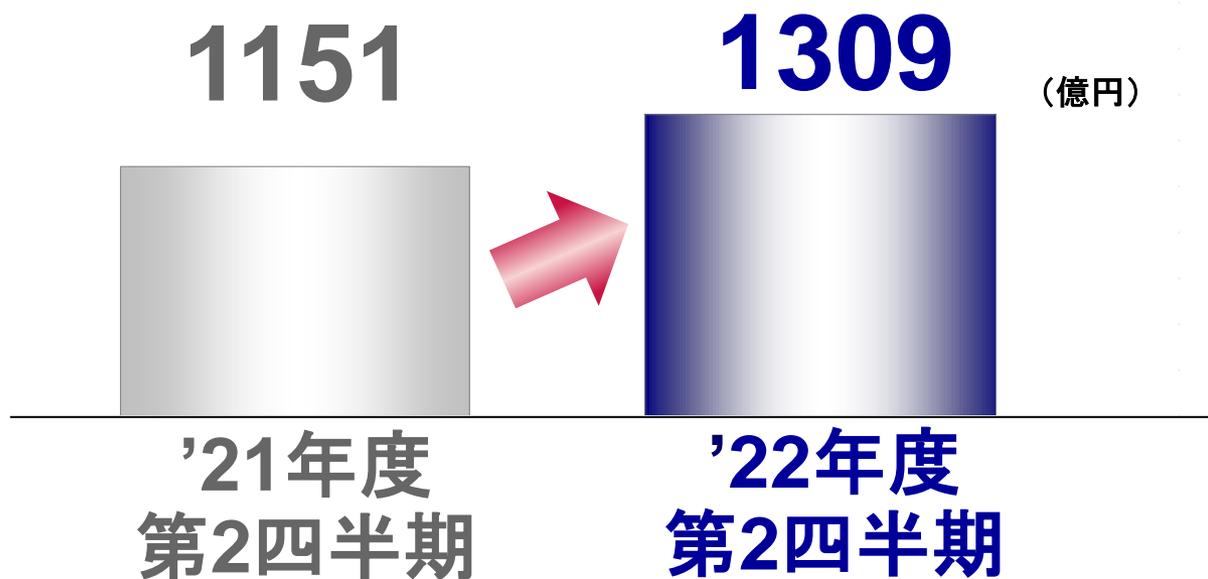
乗用車の台数は増加したものの、部品供給問題により主に商用車が減少したことで、前年同期と比べ1.5%減少の60,491台



	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	32	38	17.8%
商用車	26	18	▲30.6%
小型バス	3	5	32.5%
合計	61	60	▲1.5%

# 売上高

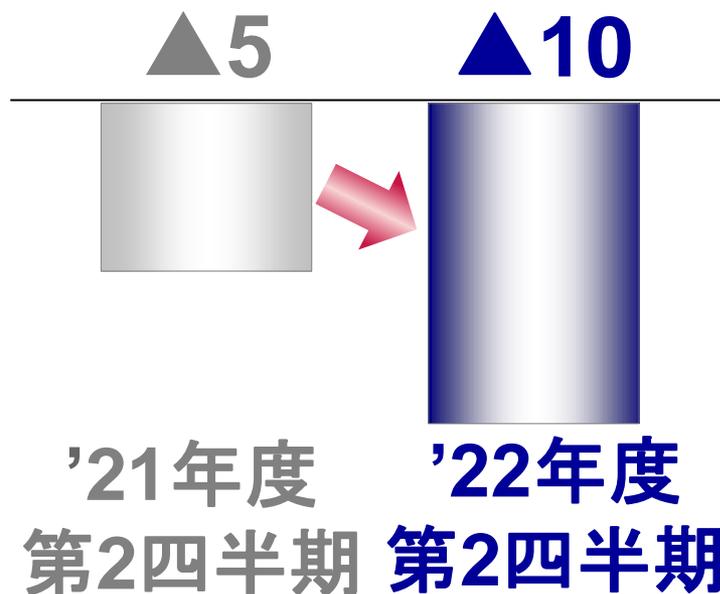
「AD」や「NV200バネット」等の商用車の台数減少の影響を大きく受けた一方で、「パトロール」や「インフィニティQX80」等の乗用車の売上が伸びた結果、157億円増加の1,309億円



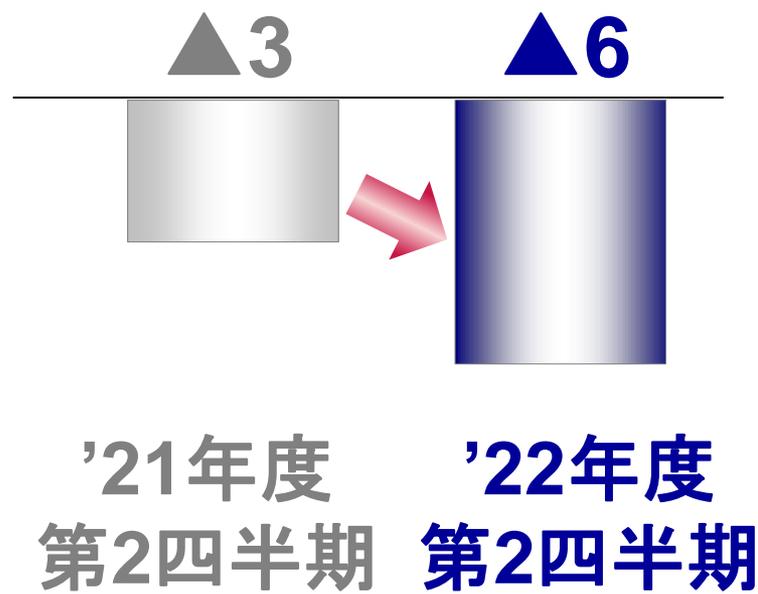
# 営業損益／経常損益

営業損益は材料の値上げ影響等により4億円悪化の10億円の損失  
経常損益は2億円悪化の6億円の損失

営業損益 (億円)

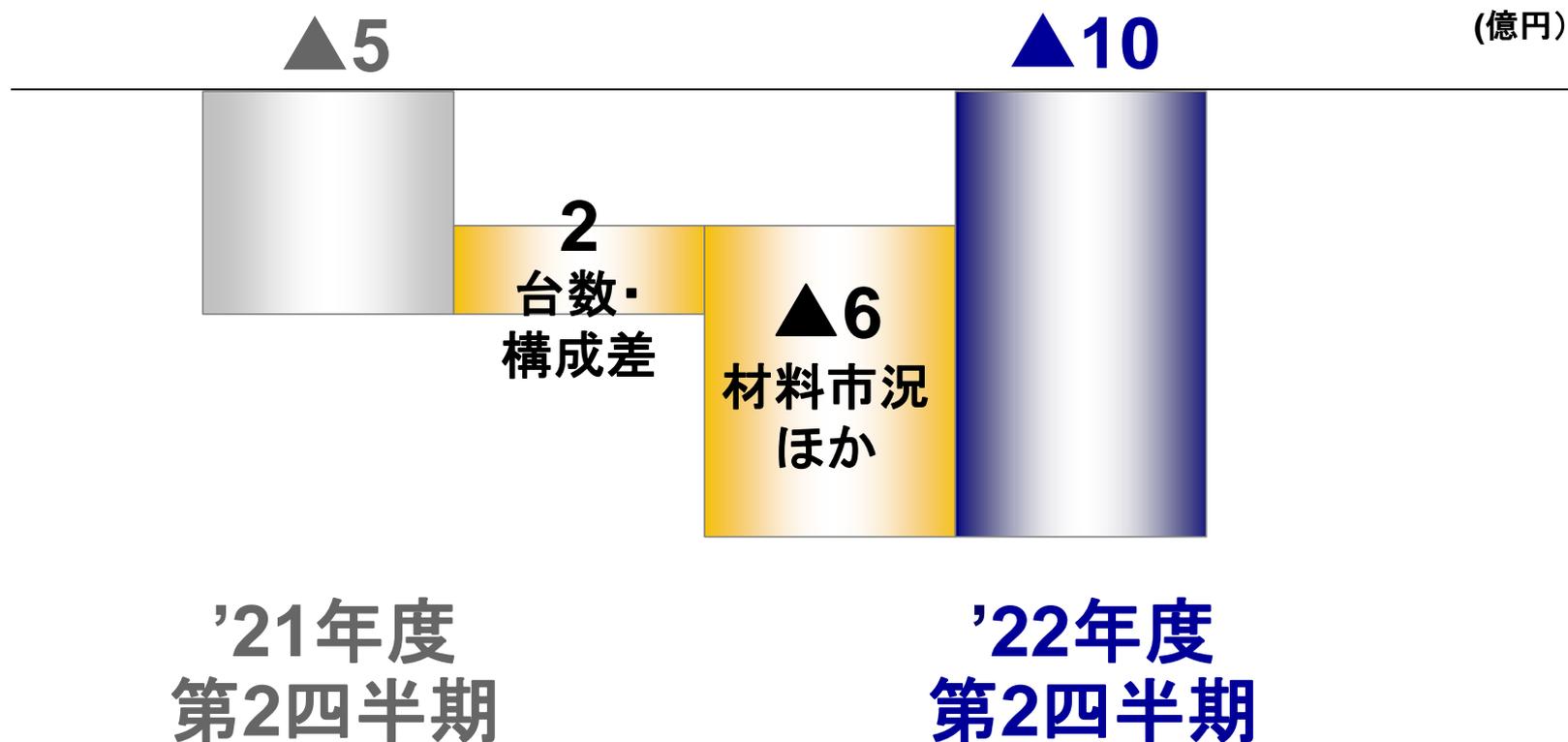


経常損益 (億円)



2022年度 第2四半期 決算 <累計>

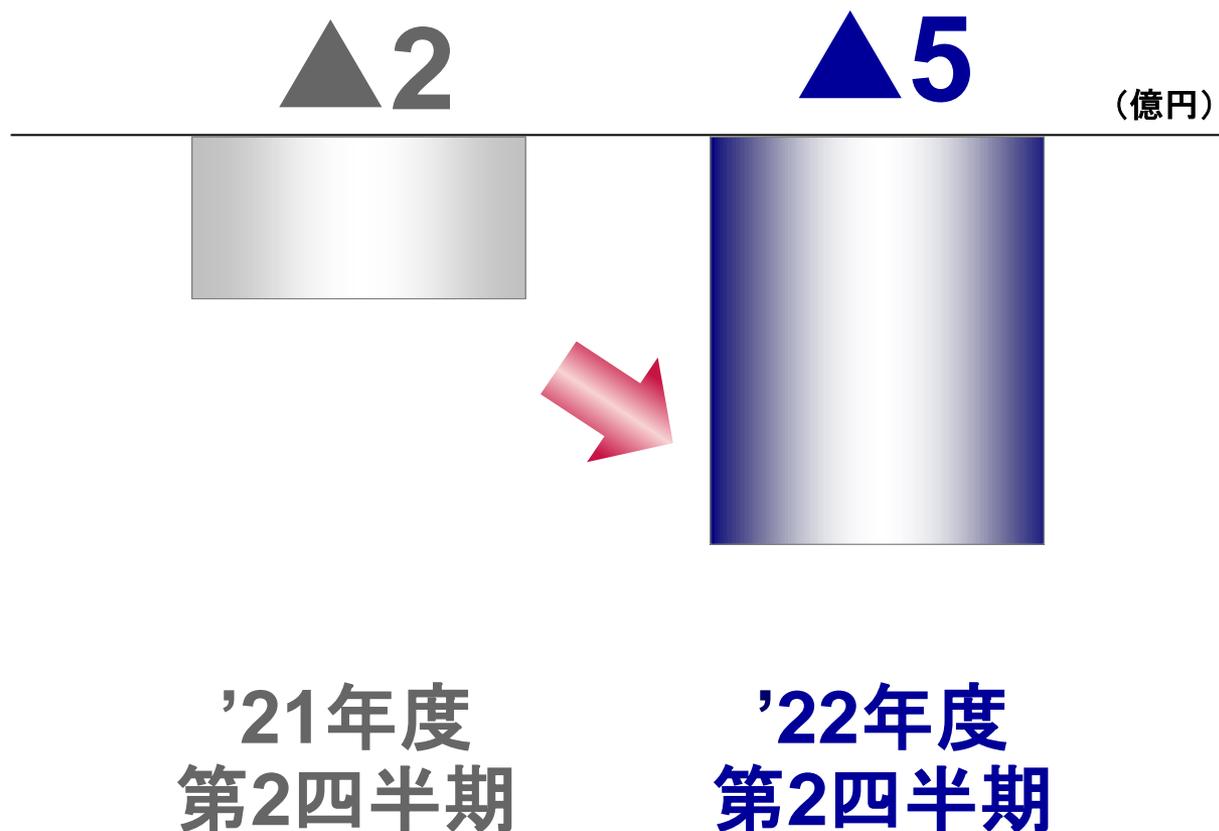
# 営業損益の増減要因



2022年度 第2四半期 決算 <累計>

# 親会社株主に帰属する四半期純損益

3億円悪化の5億円の損失



# 株主還元

継続的な安定配当を基本とし、年間13円を予定

■ 中間配当金 ■ 期末配当金

